

03

10分で読める
モバイル講演録

Akira Ishihara

mobile
lecture text



本人
音声付

なぜ成功本を読んでも成功しないのか？

石原明

はじめに

あなたは人の話を聞く機会がありますか？

家族、職場、友人など限られた人間関係の中で生きて、彼らと同じ価値観から抜け出せずにいるのではないのでしょうか。

人の話を聞くことは、あなたの価値観を変えていきます。

価値観を変えることは、あなたの人生を変えていくということです。

同じ毎日の繰り返し、将来への不安、何となくやりきれない倦怠感。

すべてはあなたの「価値観」が生み出しています。

しかし、「人の話を聞く」といわれても、すぐにそれを実行できる人は多くありません。

気軽に講演会に足を運べるようになった昨今でも、「忙しくて講演を聴く時間なんてない」「行ってみただけど、時間のムダだった」という声もよく聞かれます。

そんな忙しいあなたに贈るのが「10分で読めるモバイル講演録」です。

「10分で読めるモバイル講演録」では、移動時間や待ち時間などの10分間で、著名人の講演のポイントを電子書籍で確認可能。もし、その内容に「価値がある」と判断すれば、実際の講演やインタビュー(約1時間分)を音声でじっくりと楽しむことができます。

セミナーに行くための時間や費用は不要。

その上、ポイントはすでに書籍となっているため、内容をメモする必要もなく、集中して講演を聴くことができます。

また、本講演は加藤登紀子、鳥越俊太郎、渡邊美樹ら著名人1000人以上のインタビュー経験を持つ、プロインタビュアー・早川洋平がナビゲートすることでテレビなどでは聞けない著名人たちの本音を聴くことができます。今回のゲストは、日本経営教育研究所代表・石原明さんです。

なぜ成功本を読んでも成功しないのか？／石原明

【本人音声付】10分で読めるモバイル講演録第3巻

目次

はじめに

第1章 成功本なんて読むんじゃない！

第2章 組織力のない日本企業

第3章 すべては自分で判断する

第4章 行動すれば次の現実

教育会社で企業研修の講師を経て、経営コンサルタントとして独立。世間とは逆を行く目からうろこの発想で、様々な会社の経営アドバイスを行っている。

そんな石原さんの独立のきっかけ、成功する人の共通点、独自の発想術や、効果的な読書の仕方まで、彼が人生で培った価値観や思いを余すところなくお届けしたいと思います。

石原明(いしはら あきら)

日本経営教育研究所代表、億績経営理舎株式会社代表取締役。ヤマハ発動機(株)を経て、外資系教育会社代理店に入社。約6万人のセールスマンの中で常にトップクラスの実績を収める。「セールス・マネージャー世界大賞」を受賞後、日本経営教育研究所を設立、経営コンサルタントとして独立。

現在、「成功哲学」「売れるしくみづくり」「成長のための組織づくり」「プロ経営者の育成」などをテーマに中小企業から大手企業まで、業種や企業の規模を問わず幅広いコンサルティング活動を行っている。毎年の講演回数は100回以上。ビジネスの発想力やマーケティング力を開発・育成する「高収益トップ3%倶楽部」には全国延べ3500社が参加。

2万人の読者を抱えるメールマガジン『社長、「小さい会社」のままじゃダメなんです!』や独自の視点で経営を綴るブログ『石原明の経営のヒント』も執筆中。毎週金曜日に配信する人気ポッドキャスト番組『石原明の経営のヒント(プラス)』は年間のダウンロード数100万回を超えている。主な著書に『営業マンは断ることを覚えなさい』(三笠書房)や『社長、「小さい会社」のままじゃダメなんです!』(サンマーク出版)などがある。

第1章 成功本なんて読むんじゃない!

早川 みなさんこんにちは。本日は大和書房から発売中の『成功曲線』を描こう。夢をかなえる仕事のヒント』著者の石原明さんをお迎えしてお話をうかがいます。

まず、今の仕事をはじめたきっかけを教えてください。

石原 僕は以前、教育会社で企業研修の講師をしていました。そこで社長さんにアドバイスする中で、自分はこの仕事に向いていると思ったのです。しかし当時は、「本当にこの仕事は世の中に必要なのだろうか?」という葛藤がありました。

経営って、できる人できない人の差がはつきりしているんですよ。それなので、できない人は本当にできないし、できる人はコンサルタントなんていなくてもできてしまう。だから、この世に存在しにくい職業だな、と思いました。

しかし、どんなに優秀な社長でも夢中になると感情的になり、周囲を見ずに暴走することがある。その時に、客観的に「社長さん、それちょっとおかしいですよ」と言ってくれる人がいたほうがいいと思います、この仕事をしようと思いました。そのため、自分がコンサルタントとして独立するなんて昔は思いもしませんでしたね。後々振り返ると、小学生の時に文集で、将来は音楽家か講演家として全国を回りたいと書いていたので、そこは通じるものがあったかもしれません。

あと、コンサル業ってとにかく儲からないんですよ(笑)。強烈に労働集約型なので、自分の時間が埋まってしまうともうアウトなんです。それを考えると、同じ時間に複数の人間をマネジメントして使った方が、圧倒的に儲かります。でも僕は誰でもコンサルタントになれるとは思わないし、せつかく自分にその適性があるのだから、始めようと思いません。それなので興奮しながらやってはいけません(笑)。

早川 本書執筆のいきさつを教えてください。

石原 僕はずっと教育業に従事していて、その中で勉強したことに相当の価値があると思います。本書を執筆しました。

本書はこれが新装版で2冊目なのですが、前の本を書いたときは成功ブームだったんですよ。誰もがさかんに「とにかく目標を持って頑張れ」と言うのですが、大多数は具体的に何をすればいいかわからず、間違った方向に走

り始めてしまった。それを減らすために、成功のセオリーを全て書き出そう
と思い、本書を執筆しました。

早川 「成功曲線」とは何か、具体的に教えてください。

石原 「成功したい！」と言って、成功本ばかり読んでいる人は絶対成
功できないんですよ(笑)。成功本の内容は全部同じなので10冊も読めば十分
です。それよりも、自分のビジネスの専門書を読んだり、スキルを磨いたり
することの方が大事。現実的に「何が必要か」を知ることが重要なのです。

現実を動かすことが分かっている人は、すぐに成果が上がることを期待
します。しかし現実には、努力しても成果がすぐ出るわけではありません。
その時、あせらず努力を積み重ねると、ある日から急激に伸びていく。それ
がイメージと現実の決定的に違うところです。これを正しく理解している人
は、うまくいかない時もあせりません。

これを一度でも経験している人は良いのですが、目標ばかり入れ替えて、
興奮している人は、何をやってもうまくいきません。成功本や自己啓発本は
そういう頭でっかちな人間をたくさん作っていると思っていて、本書はそれ
らに対するアンチテーゼの意味も込めて書きました。

積極的や前向きなんていうのは普通の話で、そこに実務努力がないと成功
できないんですよ。成功本好きな人はたいてい不安で、その不安を埋めよう
とこういう本ばかり読みますが、現実が追い付かないのでますます不安にな
っていく。でも、そういう人向けに商売をしている人が山ほどいます。現実
的に考えれば成功本を読むより、自分のビジネスの専門書を読んだり、技術
を磨いたり本当の意味でのコミュニケーションを身に付けた方が良いと思
います。

早川 本書で一番伝えたいことは何ですか？

石原 人間には本当に可能性があり、適切なことを適切にすればビジネ
スレベルでは必ずみなさん成功します。

ただ、みんなその順番がわかっているのではないので、新装版には指導者の立場か
ら見た、理想の人の導き方も書いています。アマゾンのレビューでもその辺
を的確に指摘している人がいて、分かる人は分かるのだな、と思いました。

ほかにも、僕が日本一だと思っている歯医者さんがクライアントにいるの
ですが、彼は本書に大量の付箋を貼っていて、この考えを充分に理解してく
れているんですね。本質が分かっているんで、僕も彼と接しているとても
楽です。

早川 ほかのビジネス書と比べて具体的に成功する方法が書いてありま
すよね。

石原 僕は忙しい中、わざわざ時間を割いて、僕の本を読んでくれたり、
講演会に来てくれたりする人にとっても敬意を払っています。それなので、な
るべく価値あることを伝えたいと思っていますので、書き方も色々工夫し
ています。その結果、本書に限らずすべての本で、読みながら脳内に整理棚
ができるような本を作っています。この棚割りができない人は、情報が入っ
てきてもごちゃごちゃのまま、生かすことができないんですね。

本書はゼロベースから成功方法を棚割りに整理しているので、読者から「今
までの情報の整理の仕方が初めて分かりました」とよく言ってもらえます。
それなので、読んですぐスッキリする本だと思います。

僕は「売れば良い」と思って本を書いたことは一度もなく、それより
も10年後や100年後に形として残すべきものを書いていきます。新しいジャ
ンルに転向するとき本を書くので、それまでのジャンルで学んだものの集
大成のつもりで文章にまとめています。

サンプル版はここまでです。続きは、アマゾンにてダウンロードしてお楽
しみ下さい。

「なぜ成功本を読んでも成功しないのか？／石原明【本人音声付】10分
読めるモバイル講演録第3巻」

http://j.mp/1OmobiLe_ishihara_03

インタビュー・プロフィール

早川洋平／はやかわ・ようへい
横浜生まれ。

中国新聞記者等を経てプロインタビュアーに。2008年には、インタビュー形式のインタートラジオ（ポッドキャスト）番組「キクマガ」をスタート。加藤登紀子、鳥越俊太郎、渡邊美樹、茂木健一郎、石田衣良ら、130人以上のゲストが出演、年間150万ダウンロードを超える番組となっている。10、11年、横浜美術館「ラジオ美術館」、13年ユニクロCM「ステテコ&リラコ 風と暮らす篇」インタビュアー。

企業・機関・個人のメディアを創出するプロデューサーとしても活動。中核となるポッドキャスト配信サービスは、美術館、大学、病院、出版社、ラジオ局、ジャーナリスト、作家など、広く活用されている。「横浜美術館『ラジオ美術館』」「多摩大チャンネル」「鳥越俊太郎のニュースの職人チャンネル」「本田健の人生相談」「伊藤忠商事『THE 商社マン』」などプロデュース番組多数。

発行日 2013年6月30日第1版

著者 石原明

発行者 早川 洋平

執筆協力 三村 真佑美

制作 Textrage 編集部

〒244-0804

横浜市戸塚区前田町 516-1-B-110

MAIL : tr-inquiry@kiqtas.jp

URL : <http://kiqtas.jp/>

Copyright (C) 2013 KIQTAS All Rights Reserved.

本作品の内容を無断で複製・複写・放送・データ配信などすることは、固くお断りいたします。